

小平市教育委員会議事録（甲）

—— 1 月 定 例 会 ——

令和5年1月19日（木）

開 催 日 時 令和5年1月19日（木） 午後2時00分～午後3時26分  
開 催 場 所 大会議室  
出 席 委 員 古川正之 教育長  
三町章 教育長職務代理者  
丸山憲子 委員  
青木雅代 委員  
望月克浩 委員  
説明のための出席者 白倉克彦 教育部長  
岡崎奈緒子 教育指導担当部長兼指導課長  
安部幸一郎 地域学習担当部長  
飯島健一 学務課長  
中村和哉 教育施策推進担当課長  
細村英男 地域学習支援課長  
季高一成 中央公民館長  
利光良平 中央図書館長  
吉田将人 指導課長補佐  
松田弦 指導主事  
坊本朋久 指導主事  
書 記 山本真由美 教育総務課長補佐、長江陽一 教育総務課主任  
傍 聴 者 1名

午後2時00分 開会

（開会宣言）

○古川教育長

ただいまから教育委員会1月定例会を開会いたします。

（署名委員）

○古川教育長

はじめに、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員は青木委員及び私、古川でございます。

次に、非公開にて取り扱う議題を決定したいと存じます。

本日の議題のうち、事務局報告事項（6）及び議案第25号は、人事案件または個人のプライバシーを含んだ内容でございますので、非公開で取り扱いたいと存じます。

お諮りいたします。

ただいま申し上げました議題について、非公開にて取り扱うことに賛成の方は、挙手願います。

—賛成者挙手—

## ○古川教育長

ありがとうございます。挙手全員でございますので、非公開と決定いたしました。

それでは、本日の議題に入ります。

### (委員報告事項)

## ○古川教育長

はじめに、委員報告事項を行います。

(1) 東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会及び第2回理事研修会について、三町教育長職務代理者からご報告をお願いいたします。

## ○三町教育長職務代理者

委員報告事項(1) 東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会及び第2回理事会研修会について、ご報告いたします。

資料No.1-1をご覧ください。

理事会及び理事研修会は、1月12日木曜日に東京自治会館で行われました。

はじめに、理事会についてですが、1件の報告事項及び5件の議題等がございましたが、全て了承となりました。

なお、議題等(5)ア、令和5年度研修会についてですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大人数による視察研修の受入れが困難であることなどから、今年度同様、管外視察研修は行わず、オンライン研修となります。

次に、理事会終了後に開催されました理事研修会についてご報告します。

資料No.1-2をご覧ください。

スポーツ庁スポーツ戦略官、名子学氏による「部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ・文化芸術環境の整備について」として、国が昨年12月に策定・公表した部活動の地域移行に向けた学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインの内容や国の予算等について説明がありました。

国はこのガイドラインの中で、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すとしています。

また、少しでも取り組みが進むようにと、先行自治体の取組をまとめた実践事例集も作成しています。実践事例集では、運営形態の類型例を示し、それぞれの類型における自治体の取り組み

が参考例として紹介されています。地域の実情に応じて様々なバリエーションがありますが、あまり細分化しすぎないように、わかりやすくまとめられています。

国が行ったアンケートによると、令和5年度から部活動の地域移行が可能な自治体はほとんどなく、全国でも1割程度しかないとのこと。国は部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的整備として、体制構築や様々な課題にかかる実証事業などに対する補助制度を設けています。

部活動の地域移行については課題も多く、一朝一夕に進められるものではありませんが、小平市においても国の補助制度の活用なども積極的に検討し、子どもたちの望ましい成長を保障できるよう、学校部活動の地域移行についての検討を進めていただきたいと思います。

私からの報告は以上でございます。

## ○古川教育長

ありがとうございました。

以上で、委員報告事項を終了いたします。

### (事務局報告事項)

## ○古川教育長

次に、事務局報告事項を行います。

(1) 新型コロナウイルス感染について、説明をお願いいたします。

## ○白倉教育部長

事務局報告事項(1) 新型コロナウイルス感染についてを報告いたします。資料はございません。

先月の定例会での報告以降、令和5年1月17日火曜日までに庁舎に勤務する職員4名、学校給食センターに勤務する職員1名、公民館に勤務する職員5名、図書館に勤務する職員4名、元気村おがわ東に勤務する職員1名、市立学校に勤務する教職員43名及び市立学校に勤務する委託事業者従業員1名の感染が確認されました。

なお、新型コロナウイルスへの感染については、個人が特定されないよう学校名等は公表しておりませんが、感染が報告された教職員等が在籍する学校の保護者には学校の対応について周知しております。

3学期が始まりましたが、都内は依然として厳しい感染状況が続いておりますので、事務局、学校ともに基本的な感染症予防策及び健康管理の徹底を図り、感染防止対策に努めてまいります。

## ○古川教育長

次に、(2) 小平市立学校の新型コロナウイルス感染症による臨時休業措置状況について、説明をお願いいたします。

## ○白倉教育部長

事務局報告事項（２）小平市立学校の新型コロナウイルス感染症による臨時休業措置状況についてを報告いたします。

資料№.2をご覧ください。

学校保健安全法第20条の規定により、感染症の予防上必要があるときは臨時休業を行うことができるとなっておりますので、市教育委員会では、文部科学省の「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」に基づいて、同一学級において複数の児童生徒等の感染が判明した場合に学級閉鎖とするなどの対応を講じております。

令和4年度における1月17日火曜日までの市内市立小・中学校の臨時休業の状況でございますが、小学校で17校、延べ64学級、中学校で7校、延べ11学級でございます。

各学校には、情報を提供するとともに、小平市立学校版感染症予防ガイドラインに定める感染症対策の徹底を図ったところでございます。

## ○古川教育長

次に、（３）令和4年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果の概要について、説明をお願いいたします。

## ○岡崎教育指導担当部長

事務局報告事項（３）令和4年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果の概要についてを報告いたします。

資料№.3をご覧ください。

本調査の目的は、東京都の児童・生徒の体力・運動能力及び生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、また、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することでございます。

調査の対象は、小学校第1学年から中学校第3学年の児童・生徒でございます。特別支援学級の児童・生徒につきましては、児童・生徒の実態に合わせて実施するものとなっております。別紙1をご覧ください。

1ページは男子の結果、2ページは女子の結果を記載しております。なお、マイナスの表記がある数値は都の平均値を下回っていることを示しています。

小学校男子では、全ての学年において20mシャトルランの数値が都の平均を上回っております。小学校女子では、ほとんどの学年において、ソフトボール投げの数値が都の平均を上回っております。中学校では男女ともに、全ての学年において持久走の数値が都の平均を大きく上回っております。別紙2をご覧ください。

令和4年度の結果と過去4回の結果を比較しますと、小・中学校の男女ともに、20mシャトルラン・持久走、ソフトボール・ハンドボール投げや体力合計点の数値が、最も低い結果となり

ました。

次に、児童・生徒の生活・運動習慣等の調査結果でございます。別紙3をご覧ください。

項番1の「運動実施状況」の令和4年度の結果を示した右の表をご覧ください。下線は令和3年度の結果を上回っている、網かけは東京都の結果を上回っているものです。「ほとんど毎日運動をする」と回答した児童・生徒の割合が、小・中学校の多くの学年において、都の平均を上回っております。

また、項番2の「運動の好き嫌い」では、運動が「好き」と回答した児童・生徒の割合は、令和3年度と比較すると男女ともに増えております。一方で、都の結果と比較すると、小学校第3学年及び中学校第2・3学年では男女とも下回っております。

体力低下の背景として、今般の新型コロナウイルス感染症の影響やスクリーンタイムの増加等、様々な要因が考えられます。今後は、一層、児童・生徒の運動への興味・関心を高め、身体活動を積極的に行うよう働きかけることが必要であると認識しております。

各学校では、運動の効果を、授業や学級指導など、あらゆる機会をとらえて、児童・生徒に伝えるとともに、市内の取組事例や、今後スポーツ庁から提供される指導資料等の活用を学校へ促してまいります。

## ○古川教育長

次に、(4) 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について、説明をお願いいたします。

## ○岡崎教育指導担当部長

事務局報告事項(4) 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果についてを報告いたします。

資料No.4をご覧ください。

本調査は、国・公・私立学校の小学校第6学年及び中学校第3学年を対象とし、令和4年4月18日木曜日に実施されました。

なお、特別支援学級在籍児童・生徒は調査の対象ではありません。

調査内容は、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査と生活習慣や学習環境等に関する調査でございます。

項番4「各教科別の平均正答率」でございますが、全ての実施教科において、全国の平均正答率を上回っております。

項番5の「学習指導要領の内容別の平均正答率」をご覧ください。東京都の平均正答率と比べて、小学校では、国語の「話すこと・聞くこと」は、3.4ポイント上回っております。一方、算数の「変化と関係」は、0.8ポイント、理科の「粒子」は、0.6ポイント下回っております。

中学校では、国語の「読むこと」は4ポイント、理科の「生命」は3.4ポイント上回ってお

ります。一方、国語の「書くこと」は、2. 9ポイント下回っております。

次に、項番6「平均正答率の結果と分析」の「調査結果から見られる課題」をご覧ください。小学校算数では、変化と関係において、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる2つの数量の関係について考察すること、中学校国語では、書くことにおいて、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことを課題の一つと捉えました。これらの課題と関連した問題と考察、指導のポイントは資料2ページ、3ページに掲載しております。学校には、具体的な問題例と授業改善の視点を示し、課題解決に向けて指導・助言してまいります。

次に、4ページをご覧ください。項番9は「児童・生徒質問紙調査」、項番10は「学校質問紙調査」の結果について、質問事項を抜粋して掲載しております。児童・生徒質問紙調査の③、④及び学校質問紙調査の⑦、⑧の結果から、引き続き児童・生徒が自ら課題をもち、解決する力を育むために、学習のねらいを明確にしたり、自ら考え、試行錯誤する時間や他者と意見交流する活動を意図的に設定したりする必要があると認識しております。

今後も調査結果を基に、児童・生徒の学力向上を図るため、学校訪問や各研修会の機会を活用し、各学校の調査結果に基づいた課題も踏まえながら、授業改善に向けた指導・助言を行ってまいります。

#### ○古川教育長

次に、(5)小平市教育委員会後援名義等の使用承認について、説明をお願いいたします。

#### ○白倉教育部長

事務局報告事項(5)小平市教育委員会後援名義等の使用承認についてを報告いたします。

資料No.5をご覧ください。

今回報告いたしますのは、5件でございます。うち、新規申請は1件でございます。

受付No.56第一回日本民謡交流まつりでございます。多摩民謡交流会が主催する事業で、広く市民の方を対象とした発表会を通して、日本の伝統文化である日本民謡や和楽器の維持・発展及び後継者の育成を図ることを目的として、福祉会館市民ホールを会場に開催するものでございます。その他の4件は、例年もしくは過去に承認をしているものでございます。

#### ○古川教育長

ここまでの事務局報告事項につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

#### ○青木委員

(2)小平市立学校の新型コロナウイルス感染症による臨時休業措置状況についての質問と、(3)については意見、(4)について質問と意見を述べさせていただきたいと思っております。

まず、最初の(2)新型コロナウイルス感染症による臨時休業措置ですが、やはり冬休みが明

けて結構学校で感染状況が広まっていると思います。学級閉鎖までは至っていないと思いますが、中学校では、この冬、待ちに待ったスキー教室が始まっています。スキー教室の実施状況をお聞かせください。

次に、児童・生徒の体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果の概要ですが、様々な理由があると思うのですが、このコロナ禍を経てなのか、時代なのか、子どもたちの健康、体力が落ちてきていることについて、大変心配だと感じました。小学校のときは、体育の授業があったり登校したりすることで自然と体を動かす時間があると思いますが、将来的に、市民全体の健康寿命といえますか、健康な生活を送れるというところが大変大事だと思います。小さいうちの習慣は将来にもつながると思いますので、各学校へこの結果を踏まえ、将来に向けて運動習慣を身につけられるような取組を進めていっていただきたいと思います。

運動が「好き」や「やや好き」という数は結構あると思います。そうではないほんの少しの子たちが、体を動かすことが楽しいと思い、「好き」や「やや好き」となるよう、学校で今もいろいろ取り組まれていると思いますが、結果を踏まえ、改めて進めていっていただきたいと思いません。

次に、全国学力・学習状況調査の結果についてです。中学校で2.9ポイント下回っているという国語の「書くこと」は、全体的に「書くこと」という習慣やそういう場面が減ってきているような気がします。結果も出ていますので、これに関しては、より一層各校で取り組んでいっていただきたいと思いました。

次に、4ページの10番の学校質問紙調査について、質問です。回答をされているのは担任の先生なのか、もしくは学校で一つという形なのかをお伺いします。この質問に対する回答の数値はとても低いように思われました。質問内容を見ますと、「一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する」、「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」とあり、学校訪問に伺うと、子どものよいところを見つけるような指導や働きかけをすごくしているような気がします。結果が全国や都、また、令和3年度に比べて少し下回っている理由が分かれば教えてください。自己評価を厳しくされているのかなどいろいろ考えてみましたが、ほかの数値と比べても少し下回っているのが気になりました。

#### ○古川教育長

第2点目の体力調査の件は要望、それから、3点目の中学校の書くことはご意見ということでよろしいですか。

#### ○青木委員

はい。

#### ○古川教育長

では、臨時休業措置のスキー教室への影響等についてからお願いします。

**○松田指導主事**

スキー教室でございますが、全ての中学校において、予定どおり実施しております。

**○古川教育長**

大きな影響は出ていないということでよろしいですか。中学校のほうに関しては。

**○松田指導主事**

大きな影響等はございませんが、現地で発熱があり、保護者に迎えを依頼したとの報告はいただいております。

**○古川教育長**

3点目の二つ目、学校調査の記入者はだれなのか。また、学校訪問等ではほめているように見えているが、この結果はどうか、自己評価が厳し過ぎるのではないかという点についてはいかがでしょうか。

**○松田指導主事**

この質問については、四つの選択肢からなっております。こちらにお示しさせていただいたのは、「よく行った」と、一番肯定的に答えた学校の割合を示させていただいております。「よく行った」、「どちらかといえば行った」と肯定的に答えている学校は90%ございます。

また、回答につきましては、副校長先生または教務主任との認識でございます。

我々もこの「よく行った」というところでの数値の差に関しまして、一人一人を褒めるという活動はどの学校でも行っておりますが、どこまでやったらよくできたのか、という基準は様々かと思えます。誤差ではございませんが、遠慮のようなものがあつたのかと分析はしております。否定的に答えている学校はほとんどありませんので、安心いただければと思っております。

**○古川教育長**

青木委員、いかがでしょうか。

**○青木委員**

最後の学校における指導に関することは、そのような結果であれば少し安心いたしました。全国や都に比べても、また、令和3年度に比べてもかなり数値が下回っているところもあり、保護者から見ると、この数値は少し心配になる数値ではないかと思いましたので質問させていただきました。結果として、一番肯定的な「よく行った」としていないとここに載せていないということですが、そういう数値の表し方は、ほかとそろえているのでしょうか。

### ○松田指導主事

「よく行った」のみとした理由といたしましては、肯定的な回答とすると、中学校は100%となり小学校でも95%以上となるため、数値的に大きくなってしまいますので、東京都、全国と比べるためにも「よく行った」に限定させていただいたものでございます。

### ○古川教育長

青木委員、よろしいでしょうか。

### ○三町教育長職務代理者

昨年までこういう調査では、肯定的な評価を含めた結果を報告していただいていたと思います。しかし、ほとんど行っているのので、私は意味がないと思い、たしか前回、肯定的であっても、やはり本当にいいのかわかるかを見ていかなければならないと指摘させていただいたと思います。今回、それが明らかになっており、私は大変いいデータの出し方だと思います。学校にはもっと「よく行った」の回答になるよう指導をしていただければと感じています。

### ○古川教育長

では、ほかの委員の方々はいかがでしょう。

### ○丸山委員

私も（４）令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果について、意見です。資料４番の７番の算数について、果汁の問題は、やはり日頃の実体験というのはこういうところに反映されると思います。ぜひ、机上だけではなく、日頃から家庭も含めて意識的に様々な体験をとり入れてほしいと思います。

また、中学校の「書くこと」にも少し関係しますが、先日、中学生の意見発表会を聞かせていただき、皆さん、様々な経験をされて、それを基にすごくいい意見発表会になっていました。まさにあれは「書くこと」で、実体験をアウトプットして、自分の言葉で長い文章を書くということはすごく重要だと感じました。書くことは訓練ですので、ぜひ、きめ細かな継続した指導をしていただきたいですし、それをみんなで共有して、その作文を評価し合うというところまでいくといいと思います。そういう指導は大変なので、ご苦労もあると思いますが、ぜひ、「書くこと」の訓練をしていただきたいと思いました。

### ○古川教育長

ご意見ということでよろしいですか。

### ○丸山委員

はい。

## ○望月委員

私から2点あります。まず、資料No.3の体力・運動能力調査結果について、別紙1の体力合計点等に関して、確認させていただきたいです。小学校6学年、中学校3学年の合計点に関して下回っています。しかし、ほかの表を見ると、点で出しているのではなく差で出しているのが、実際のところどのくらいどこが低いのか少し分かりにくいと思いました。課題になっているところ、全体的に小平市のどこが悪いのかがもし分かるのであれば教えていただきたいと思います。こちらに関しては、誤差にも見えるのですが、何かしらの問題があるのでマイナス表記というところがあると思いますので、設定をご教授いただきたいと思います。

続きまして、資料No.4の9、児童・生徒質問紙調査について、(1)の②将来の夢や目標をもっていますかというところについて、中学校3学年は昨年と比べて下回っています。全国もそうですが、ここは全体的に低いと見受けられます。そう考えますと、現状、それよりもさらに下回っているということは少し課題ではないかと感じております。私は、将来の夢や目標というのが非常に大事ではないかと思っていますので、ぜひとも強化をお願いしたいと思いますが、今実際にどのような形で学校全体的で指導等をされているかご教授いただきたいと思います。

## ○古川教育長

では、2点。まずは体力の合計点ということに関してですが、望月委員、もう一回体力の合計点についての質問をお願いします。

## ○望月委員

体力の合計点は、今出ている項目がそれぞれポイントになっており、最終的に体力合計点として出ていると思います。しかし、この点に対して、例えばソフトボールであればマイナス0.2ということで20センチぐらいの差ですので、大したことはないのではないかとと思うのですが、実際の体力合計点としては約マイナス1ポイントになります。このポイントとこちらの差というところが非常に分かりにくいので、何が課題なのか、もし分かるのであれば、教えていただきたいと思います。

## ○松田指導主事

本市の課題といたしましては、まず、握力、上体起こし、反復横とびの数値は、例年課題に上がってきている種目であると認識しております。長座体前屈や立ち幅跳びにつきましては、平均値と捉えております。

また、東京都では持久走やシャトルランの走力について、結構課題であると言われているところではございますが、本市につきましては、走力については、平均以上を今のところは維持していると捉えております。

## ○古川教育長

続いて、学習状況調査の将来の夢について。

## ○松田指導主事

全国の調査資料からも、将来の夢や目標をもっていますかは、全国的に低い数値になっています。本市といたしましては、キャリア教育の視点で小学校から職業についての学習を始め、中学校では職場体験や職業調べ、様々な職業の方々からの講話等の学習を意図的、計画的に実施しているところがございます。

## ○望月委員

先ほどお話しいただいたところで理解できました。資料No.4の将来の夢や目標というところに関しては、目標を持つということに対して、やはり学力などもかなり影響してくるポイントではないかと思しますので、ぜひとも、引き続き強化といたしましょうか、積極的にご指導をお願いしたいと思います。

## ○古川教育長

三町委員、いかがでしょうか。

## ○三町教育長職務代理者

私も体力・運動能力と学力・学習状況調査の結果に関して、質問と感想等をお話しさせていただきたいと思います。

まず、体力・運動能力について、東京オリンピックの前あたりで様々なスポーツに関わる取り組みがあったわけです。その中でも、各校子どもの体力的な課題を補うという意味で、特別な形で、例えば持久走を強化する取り組みなど、1校1取組という活動があったと思います。そうした取り組みで体力の低下を防いでいる、向上を図っていると思います。それが今はどういう形で継続されているのか。

学力については、この調査結果データについては非常に言いにくいところではあります。中学校で、「書くこと」が遅れているということですが、本当にそうなのか。問題がよく分からないので、単にこういう形の問題を学校で指導していなかったから、条件を飛ばしただけであって、書く能力ではないのではないかと思います。例えば、試験でこういう問題に取り組んでいけば、条件を読んでやるわけであって、やっていなかったから読み飛ばしたのではないか。しかも、無回答率は都よりも少ないわけです。しっかり取り組んでいる割合は高い。単に括弧をつけそなかったもので、それが「書くこと」ということでもいいのかどうか、非常に疑問であり、どのようにそれを評価されているのか。

もう一点は、先ほど望月委員から質問がありましたが、将来の夢や目標をもっていますかということで、職場体験という話がありました。中学校1年から3年生卒業までの進路指導の一環と

しての流れで位置づけている。昨年は職場体験をやっていません。今年もやっていない。その中の結果ですので、もっと前はどうか。また、子どもは違うわけですから、場合によっては単に学年集団によっての意識でこうなっているということもあるのではないか。よいところの分析はどのように見られたのか。単に前年度より低いからいいとか悪いとかという議論ではないと思います。そういう意味で、職場体験を実施した頃の割合はどうだったのか。また、昨年と今年の子どもの状況の中で、数値的にほかの年と比べてどうか。その辺について、分かる範囲で教えてください。

### ○古川教育長

まず1点目は、体力に関して、以前行っていた1校1取組のような取組というのはどうなっていますかということ。

### ○坊本指導主事

1校1取組についてでございますが、各学校の実情に応じて体力の向上、運動の日常化をねらいとして楽しみながら運動プログラムに取り組んでいる状況でございます。その例としまして、持久走月間、縄跳び週間、こちらは短縄や長縄を使つての取組、また、体育の授業の前にサーキットトレーニングを行うなど、報告をいただいております。

### ○古川教育長

学力・学習状況調査のほうでは、中学校の「書くこと」への指導、それから、将来の夢についてのキャリア教育という職場体験のほうは今後どうなるのかというのを含めてのご質問だと思いますが。

### ○松田指導主事

中学校の国語のことにつきましては、委員のご指摘のとおり、無回答率が少なかったため、生徒たちはこれまでの経験や学習から回答しています。誤答として、②の条件で引用する部分を括弧でくくっていないというところで、間違っている生徒が、49.9%でございました。

今回の国語の授業は、知識及び技能が実際の場面で使えるものかどうかと問う問題が挙げられております。丸山委員もおっしゃったように書くことのトレーニング的なことも踏まえて、情報の発信者を明確にするというところについては、改めて中学校に指導していただきたいこととして示しております。

2点目の「将来の夢をもっていますか。」というところですが、令和元年度は、小学校が82.9%、中学校が66.4%でございました。令和3年度は、小学校が81%、中学校が66.0%、そして令和4年度というところですので、やはり年々下がってきているという現状は全国的に見ても同じと捉えてはいるところでございます。

## ○古川教育長

それと、職場体験等。

## ○松田指導主事

職場体験についてでございますが、令和5年度に各中学校で3日間程度の実施、直接体験を実施するよう教育課程の説明会でお話ししております。

## ○三町教育長職務代理人

体力に関しては、学校はやらなければいけないというときには非常に盛り上がりますが、それが何年か続くと単なるルーティンに陥りがちですので、体力については常に高めていく、あるいはキープしていく必要があるので、いろいろご指導いただけたらと思います。

学力のほうですが、今説明いただいた「書くこと」と将来の夢に関してはよく分かりました。私が感じたことと同じことだと理解しました。こういうパターンは、社会科でもそうだと思いますが、条件を読み取ってそれをもとに構築していった正解を導くことは、非常に大事だと思いますので、学校でも取り組んでいただきたいと思います。

それから、小学校の割合に関する問題を見て、算数の授業で、指導者側が割合を割合としてだけで教えているのではないかと気になっています。込み具合など、同じようなものの考え方のもものは幾つも出てきます。そこはそこ、これはこれということではなく、関連させているのでしょうか。算数指導の中での割合というのは非常に難しい。主要な概念です。教科書では、中学校段階、高等学校段階で内容を変えています。単元として割合について設定させている国もあります。日本はそれが小学校で終わってしまいます。後は中学校で使う、ここで使う、そういうふうになっているので、どうしても弱いところだと思います。スパイラル的にやっていかなければいけないのですが、そういう意味では、日常との関連づけも大事です。当たり前ですが、ジュースを半分にしても味は変わりません。それを算数の時間で言うかどうかは別にして、算数であればこれを計算で求めて割合にしよう。中身に入っているから、数字は変わらない。それは体験した後も同じだと、そういう数学的な意味合いでの指導をきちんとした上で、日常とも関連づけていく。それを意識した指導をやっていただくと子どもたちは伸びると思いますので、よろしくお願ひします。

## ○古川教育長

ほかにございませんでしょうか。

－「なし」の声あり－

## ○古川教育長

では、事務局報告事項を終了いたします。

(協議事項)

○古川教育長

次に、協議事項を行います。

(1) 令和4年度小平市教育委員会表彰について、説明をお願いいたします。

○白倉教育部長

協議事項(1) 令和4年度小平市教育委員会表彰についてを説明いたします。

資料No.7をご覧ください。

小平市教育委員会では、小平市の教育及び文化の振興発展に貢献し、かつ、その功績が顕著なもの及び他の模範と認められる行為を行ったものに対し、表彰しており、年2回表彰式を行っております。今回の表彰は、小平市立学校に在学する児童・生徒、またはこれらの者で構成する団体に対するものでございます。

対象となりますのは、小平市教育委員会表彰等に関する規程第2条第1号に該当する17名1団体でございます。詳細につきましては、資料をご覧くださいと存じます。

○古川教育長

このことにつきまして、ご質問、ご意見をいただきたいと存じますが、「被表彰候補者一覧」は個人情報を含んだ非公開資料となりますので、ここでは表彰理由など、概要について何かございましたら、お願いいたします。

○三町教育長職務代理人

大会の名前からどの程度の団体なのかよく分からないものがあるので教えてください。No.3のベーテン音楽コンクールですが、いろいろと音楽協会があるのか分かりませんが、ベーテン音楽協会というのはどういう団体なのか、その中での最優秀賞というのはどの程度なのかを教えてください。

次に、15番のAGG連盟オンライン国際大会について、エステティック・グループ・ジムナスティックスというものがよく分かりません。新体操ではない。道具は使わない。道具は使わないが体操ではない。美しさを表現する。日本AGG連盟というのはどういう組織なのか、どういう位置づけでの国際大会なのか教えてください。

○古川教育長

3点目と15点目のところ。

○山本教育総務課長補佐

はじめに、ベーテン音楽協会ですが、こちらは、事務局の本拠地は広島にありますが、東京にも支部がある団体です。15回程度大会を開催されているものになり、技能のみに特化をして競

うというより音楽のすばらしさや音楽の楽しさを味わうことを重視している団体のコンクールとなります。

地区予選を通ったうえで関東地区本選に出場しております。そこで最優秀賞を受賞しますと全国の大会に進めるという賞になりますので、地方大会で全国大会に進むほどの上位の賞を受賞しているということです。

次に、AGGですが、こちらは割と新しい競技ではありますが、団体としては一般社団法人になっております。全体の競技人口が全世界で1万人程度の競技人口で、先ほど委員おっしゃったように新体操に近いような競技ですが、手具を使わずに表現をする、競技の美しさといったような芸術性に特化した競技になっております。

国際大会となっておりますのは、全世界を対象として、マレーシアやいろいろな国から参加をしてくる大会になっているからです。日本大会を勝ち上がってということではありませんが、全世界の方に広く参加を募って、いろいろな国の方と競った大会となります。こちらで入賞しておりますので、この表彰対象の候補として挙がってきたということでございます。

#### ○古川教育長

よろしいですか。

#### ○三町教育長職務代理者

結構です。ありがとうございました。

#### ○古川教育長

ほかの委員の方はいかがでしょうか。よろしいですか。

－「なし」の声あり－

#### ○古川教育長

それでは、「被表彰候補者一覧」につきましてのご質問・ご意見は、非公開の会議にて取り扱うことといたしまして、表彰の概要につきましては、提案どおり了解ということでご異議ございませんか。

－「異議なし」の声あり－

#### ○古川教育長

以上で協議事項を終了いたします。

以上で、冒頭に非公開と決定したものを除く議題は終了いたしました。これ以降の議事は非公開にて取り扱いますので、関係者以外の方は、ご退席願います。

ここで休憩したいと存じます。3時15分まで休憩いたします。

午後2時57分 休憩